

● ● ● 経営情報あれこれ ● ● ●

» » » » » » » » 令和 7 年 9 月号 « « « « « « « «

★最近の経済状況★

米国における保護主義の台頭（アメリカファースト、関税政策等）により、世界の貿易取引は減少傾向にあり、世界経済にマイナスの影響を与えています。

トランプ政権の関税政策に対し、米国の控訴審は違法と判断し、これを受けて、トランプ政権は、連邦最高裁に上告しています。連邦裁判所の判断次第で、トランプ政権の関税政策は、変わる可能性があります。

また、米中対立、ウクライナ戦争・ガザ地区紛争の泥沼化、各国で極右勢力の台頭（日本の参政党の躍進も同様）と防衛力強化、経済低迷によるインドネシアでの大規模デモ等、世界経済を取り巻く環境は、不透明な状況にあります。

今月は、最近の世界経済の状況及び日本経済の状況に関し、紹介いたします。

1, 世界経済の概要

(1) IMF の 7 月の経済予測

7 月 1 日、IMF（国際通貨基金）は、今年 4 月に訂正した「世界経済の見通し」を修正し、新たに「世界経済の見通し」を公表しました。

4 月の公表値と比較し、2025 年の世界 GDP は+0.2%、米国、ドイツ、英国、イタリア、日本は+0.1%、中国は+0.8%、インド+0.2%の増加でした。

(実質GDP、年間の変化率、%)	2024	2025	2026
世界GDP	3.3	3.0	3.1
先進国・地域	1.8	1.5	1.6
米国	2.8	1.9	2.0
ユーロ圏	0.9	1.0	1.2
ドイツ	-0.2	0.1	0.9
フランス	1.1	0.6	1.0
イタリア	0.7	0.5	0.8
スペイン	3.2	2.5	1.8
日本	0.2	0.7	0.5
英国	1.1	1.2	1.4
カナダ	1.6	1.6	1.9
その他の先進国・地域	2.2	1.6	2.1
新興市場国・発展途上国	4.3	4.1	4.0
アジアの新興市場国と発展途上国	5.3	5.1	4.7
中国	5.0	4.8	4.2
インド	6.5	6.4	6.4

(2) 世界銀行の経済予測

7月10日、世界銀行は、2025年の世界経済の成長率（GDP）を2.3%と予測する旨の発表を行いました。世界銀行の報告書では、景気後退（リセッション）まではいらないものの、2008年以降、最も弱い経済成長となり、2027年まで、世界経済の成長率は2.5%にとどまると予測しています。

①先進国

先進国の経済成長率を1.2%と予測し、その中で、米国は1.4%、ユーロ圏0.7%、日本0.7%と予測しています。

②新興・途上国

新興・途上国等の経済成長率を3.8%と予測し、その中で中国は4.5%、メキシコ0.2%と予測しています。

2. 各国の経済状況

各国政府は、トランプ関税によるマイナス影響に対し、自国経済成長を促すため、各種の財政政策、金融政策を実行し、景気後退を避けようとしています。

(1) 米国

2025年1月～3月のGDPが前期比0.3%減でしたが、4月～6月のGDPは3.3%の増加でした。これは、3月までの駆け込み輸入の反動で、輸入が大幅に減少した結果でした。国内最終需要増加は1.6%であり、サービス消費は1.2%の増加にとどまり、景気が減速しています。

6月の労働者雇用数は、マイナスとなり、7月の貿易収支は、今年最大の赤字でした。また、8月の労働者雇用数は、わずかの増加にとどまり、また失業率は4.3%と先月より悪化しました。

今後、関税による輸入物価の上昇、国内消費の低迷等から2025年後半の米国経済は、減速の見込みです。

(2) 中国

中国国家統計局は、2025年1月～3月のGDPが前年同期比5.4%、4月～6月が5.2%、失業率は、前回同様5.2%と公表しました。

しかし、不動産不況が長期化し、消費低迷によるデフレ、若者の失業率は公表で14.7%程度ですが、実態は、さらに悪く、これにトランプの関税が加わり、工場の倒産が続く、失業者が増加しているとのこと。

失業者が増加し、多くの国民が厳しい生活の状況にある中国では、ロシアからの安い石油や天然ガスの購入は、米国の経済制裁を受けても、国民の不平不満を習近平政権に向けないためにやむをえないといえます。

米国との関係は改善する兆しがなく、米国以外の国への輸出を開拓していますが、あまり期待できず、今後も中国経済の低迷は続く見込みです。

(3) EU

ユーロ圏の経済は、2025 年 1 月～3 月期 0.4%の増加に続き、4 月～6 月期は 0.1%の増加にとどまりました。

政策金利の引下げ、トランプ関税 15%で同意、政府支出（防衛費等）の増加、消費者物価が安定し、消費支出の増加等により、年末にかけて、E U経済圏は、わずかながら回復すると見込まれています。

（4）東南アジア・インド経済

東南アジアで、最も厳しい国がインドネシアです。米国への輸出低迷、中国からの輸入増加等により、企業の倒産、失業者が増加し、国内経済は低迷し、生活苦から各地で大規模なデモが発生している状況です。

また、タイでは、経済低迷に加え、政権も安定せず、経済成長率は、1%程度の厳しい状況と予測されています。

他方、インド、ベトナム経済は、トランプ関税の影響はあるものの高い経済成長率（インド 6%台、ベトナム 7%台）を維持しており、今後、若干の減速は予測されるも、高い経済成長が見込まれます。

3、日本経済の状況

（1）概要

日本の 2025 年 1 月～3 月の実質 GDP は対前年比 0.1 で、4 月～6 月 0.3%でした。企業の設備投資、マンション建設等が増加し、GDP を支えています。

年・期 項 目	2024			2025		
	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	
国内総生産（GDP）	0.7	0.3	0.6	0.1	0.3	***
国内需要	1.2	0.5	-0.2	0.9	-0.1	***
	(1.2)	(0.5)	(-0.2)	(0.9)	***	(-0.1)
民間需要	1.1	0.6	-0.2	1.3	0.0	(0.0)
民間最終消費支出	0.9	0.7	0.1	0.2	0.2	(0.1)
家計最終消費支出	0.9	0.7	0.1	0.2	0.1	(0.1)
除く持ち家の帰属家賃	1.1	0.8	0.1	0.2	0.1	(0.1)
民間住宅	1.5	0.8	-0.1	1.4	0.8	(0.0)
民間企業設備	1.2	0.1	0.5	1.0	1.3	(0.2)
民間在庫変動	(0.1)	(0.0)	(-0.3)	(0.6)	***	(-0.3)
公的需要	1.3	0.1	-0.1	-0.2	-0.3	(-0.1)
政府最終消費支出	1.0	0.0	0.2	-0.5	0.0	(0.0)
公的固定資本形成	2.5	0.1	-0.8	0.1	-0.5	(-0.0)
公的在庫変動	(0.0)	(0.0)	(-0.0)	(0.0)	***	(-0.0)
（再掲）総固定資本形成 ※3	1.5	0.2	0.1	0.9	0.9	(0.2)
財貨・サービスの純輸出 ※4	(-0.5)	(-0.2)	(0.8)	(-0.8)	***	(0.3)
財貨・サービスの輸出	1.1	1.3	1.9	-0.3	2.0	(0.5)
（控除）財貨・サービスの輸入	3.1	2.0	-1.5	2.9	0.6	(-0.2)

(2) 物価上昇と低迷する消費

2025 年 1 月から 8 月まで、毎月、物価上昇率は 3% を超え、G7（先進 7 개국）の中では、最も高い物価上昇率です。

他方、賃金の伸びは低く、実質賃金は 3 年以上マイナスが続いています。このため、消費支出は低迷し、国民生活は厳しい状況が続いています。

(3) 今後の状況

現在、日本経済を取り巻く状況は、次のとおりです。

①需要の動向

イ、増加要因

（イ）堅調なインバウンド需要 （ロ）AI・IT 等の民間設備投資

ロ、減少要因

（イ）物価上昇による消費低迷

（ロ）トランプ関税による輸出の減少

②政策金利の動向

現在、政策金利は 0.5% ですが、物価上昇、長期金利の上昇を受け、年末までに 0.25% の利上げが予測されています。また、26 年中にも 0.25% の引上げにより、2026 年末には、政策金利は 1.0% になると予測されています。

政策金利の引上げは、円高と経済減速を生じさせ、輸出企業の業績にマイナス影響を与え、住宅ローンの引上により、住宅需要の減少を招きます。

③為替の状況

現在の為替は、1 ドル 147 円前後で推移しています。今後、日本の政策金利引上げ（0.25%）、米国の政策金利引下げ（2 回合計 0.5%）が、12 月までの短期間に行われる見込みであり、ドル為替相場は円高となり、短期的には 140 円を割る場合があると予測されています。

⑤今後の GDP

現在、世界経済は、保護主義の台頭、貿易取引の減少、トランプ関税の影響等により、スタグフレーション（景気低迷の中での物価上昇）の状況にあります。

この傾向は、今後も変わらず、世界経済同様、日本経済も厳しい状況が続き、特定産業（インバウンド、防衛、AI・IT、災害関連等）を除き、厳しい状況が予測されます。2025 年度の GDP は、0.1%～0.7% の範囲と予測されます。

★事務所から★

企業は、販売数量の減少に対し、売価の引上げにより利益を出しています。今後も、消費低迷の中、物価上昇が持続する見込みですので、各社、適切な対応が必要です。

（公認会計士辻中事務所、税理士法人みらい）